

わたしたちの人権

167

誰もが人間として生きていくうえで
 侵すことのできない当然の権利
 これが『人権』です

山都町人権を考える町民の集い

12月7日(金) 矢部保健福祉センター「千寿苑」において山都町人権を考える町民の集いを開催しました。

集会では、町内小・中学生および高校生による人権作文の発表と、福岡県人権・同和教育研究協議会の赤星映子さんによる「みんなが幸せになるために」と題した講演でした。



講師の赤星映子さん

いや考えが発表され、講演では、人権意識の育み方や差別問題、人権問題の現実など自らの体験談を交えながら分かりやすくお話いただきました。



小・中学生、高校生の人権作文発表

集会参加者は、子どもたちの作文発表と講演を自分の思いと重ねながら聴き入り、人権の重要性について改めて考える1日となりました。

子どもたちの人権作文

12月の人権旬間にあわせて、子どもたちが書いた人権作文を1・2月号で紹介しします。今月は2名の作品を紹介します。

※今月は御岳小1年 品田祈莉さん、蘇陽小5年 橋本那央さんの作文を掲載し、来月号には清和小6年 木野遥さん、清和中3年 寺崎保乃香さん、矢部高校3年 國武朱音さんの作文を掲載します。



御岳小学校

1年

品田

祈莉

わたしは、「ぼく さびしかったんだ」をべんきょうして、さとしくんは、みんなとかえれなくて、かわいそうでした。なんでさとしくんは、みんなにこえをかけても、だれもいっしょにかえってくれなかったのか

かなとふしぎにおもいました。わたしがさとしくんだったら、さびしくて、学校にいくのがいやになったかもしれない。でもさとしくんは、じぶんのいやだったことを、せんせいにそうだしさく文にかいて、みんなにつたえました。わたしは、すごいなあ、ゆうきがあるなあとかんしんしました。

わたしたちの学きゅうでも、いやなことやさびしかったこと、つらかったことについてかんがえました。わたしは、いやなことをされたことについて、さ

く文をかきました。そして、みんなのまえではつびょうしました。

わたしは、きんちようしてかおがあつくなりました。さとしくんのようにおともだちがわかつてくれるかなあとおもいました。さいしよは、きづいてないみたいでしたが、しばらくしたあとあやまってくれました。りゆうもいつてくれたので、わたしもなつとくしました。

わたしも、しらないうちに、ともだちがいやだとおもうことをしたり、こまらせるようなことをしていました。ともだちがいやだったことのさく文をよんできづきました。わたしは、じぶんがされたことは、よくおぼえていたのに、したことは、わすれていました。だから、さく文にかいてつたえることはとてもだいいじだとわかりました。

まだ水俣病問題は、終わっていない



蘇陽小学校

5年

橋本

那央

宿泊教室のまえに、水俣病の問題について勉強しました。

私が、「この子とともに」を学習して、おかしいと思ったことは、苦しい思いをしている水俣病の家族にたいしてのまわりの人の態度です。患者互助会の人たちは、冷えきったコンクリートの上にすわり見まい金を要求したのにたいし市民の態度は冷たく、支援してくる人がいないし、会社は要求したお金に対し少しのお金で全部すませようとしていました。そこがおかしいと思いました。けれど

ども、家族の人たちはあきらめていませんでした。あきらめなかったわけは、それが本当の事でないとわかってほしかったからだだと思います。そして、さいばんをおこし、みごとに勝ちました。けど家族の人たちは心からよろこばませんでした。それは、今でも水俣病のことで苦しんでいる人がいるからだろうと思います。まだ、水俣病問題がわかっていないことがわかりました。

私は、前に勉強した白山の人たちのハリストと同じ所をみつめました。一つ目は、あきらめないでうったえつづけたことです。白山は、昔はきゅうきゅう車が通れないようなせまい道でした。また、「自分が住んでいる所を、いえなかった。」とフィールドワークに行った時に聞きました。私は、村の人は協力してあきらめなかったから

道路が広くなり、生活がしやすくなったんだと思いました。

二つ目は、「まわりの人が冷たい目でみる。」というところ。あたり前のことを、うったえたのに、まわりの人からはじろじろみられました。でも、内大臣の人がおうえんにきてくれて、「生きていてよかった。」と思ったとはなされました。白山の人たちも、水俣の人たちも、おかしいことを命をかけてうったえた所がすごいと思いました。

私は、水俣で語り部さんの話を聞きました。語り部の南さんは、家族のことを一番に考えているなと思いました。理由は、南さんの子どもさんが水俣病の事でいじめられていたことを知った時自分ばかりをせめていたことがわかったからです。南さんは、水俣病のかん者を応えんする会、市

民会議に参加していて良い行いをしているのになぜ南さんの子どもはいじめをされなければならぬのか不思議におもいました。私は、水俣病のことを奇病とか、うつるとかひどい事をいつてきた町の人に負けないでたたかった南さんのことを冷たい目でみている町の人、こういう気持ちだったんだらうとおもいました。きっと、水俣病の事、水俣病がおこったげんいんなど水俣病のことを知らなかったんだとおもいます。だから、私も、真実をいったり、確かめることが大切だとおもいました。

私は、まだ水俣病が終っていないことを知りました。考えたことを知らない人につたえていきたいです。